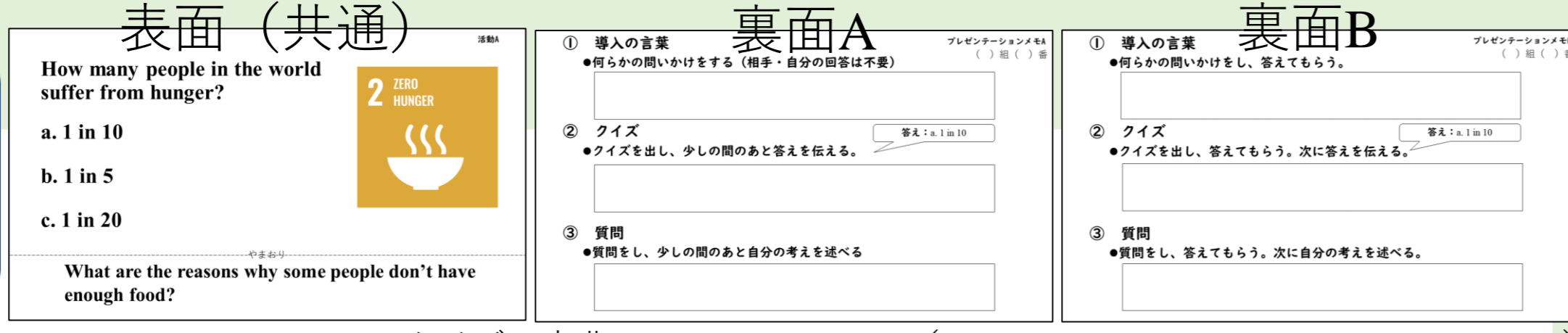


# 双方向的な英語プレゼンテーションが事前練習の動機づけに及ぼす影響

## 目的

一方向的または双方向的な英語プレゼンテーションに向けて自主的に準備・練習をするとき、その過程にどのような違いがあるのかを、主に動機づけや自己評価の観点から分析し、明らかにすること

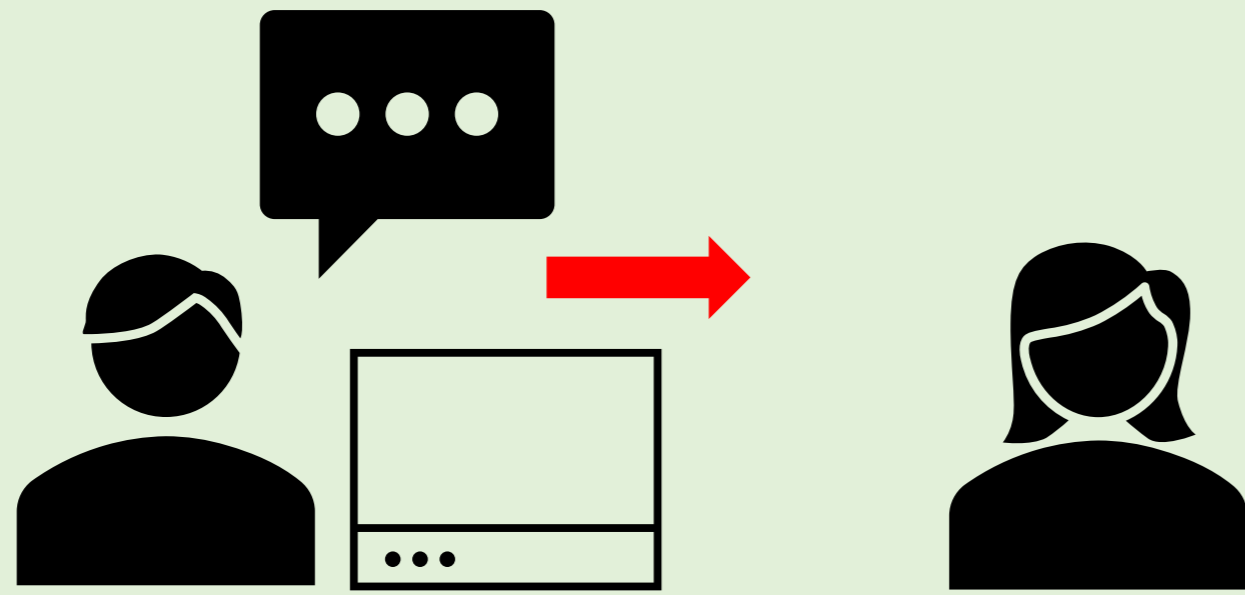
## 方法



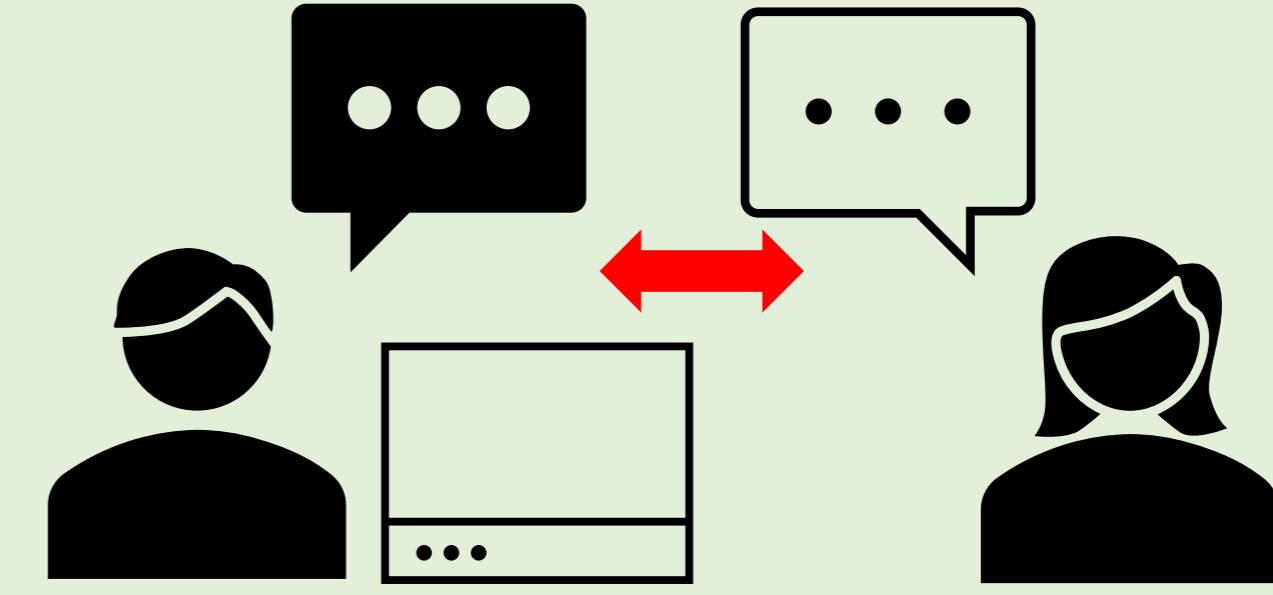
- ① 附属中学校3年生（A～D組）を対象とした。
- ② 上のような教材（プリント）を作成した。
- ③ 右のような流れで、調査を行った。
- ④ その際、下のような活動をペアで行った。
- ⑤ アンケートへの回答と授業外学習記録用紙、プレゼンテーションメモを分析した。

	A・B組	C・D組
自己評価アンケート調査		
第1週目	授業外学習記録用紙①に毎日の学習を各自で記録 活動A	活動B
第2週目	授業外学習記録用紙②に毎日の学習を各自で記録 活動B	活動A
実施したプレゼンテーション活動に関するアンケート調査		

【活動A】一方向プレゼンテーション  
質問やクイズをしても聞き手からの反応を求めない

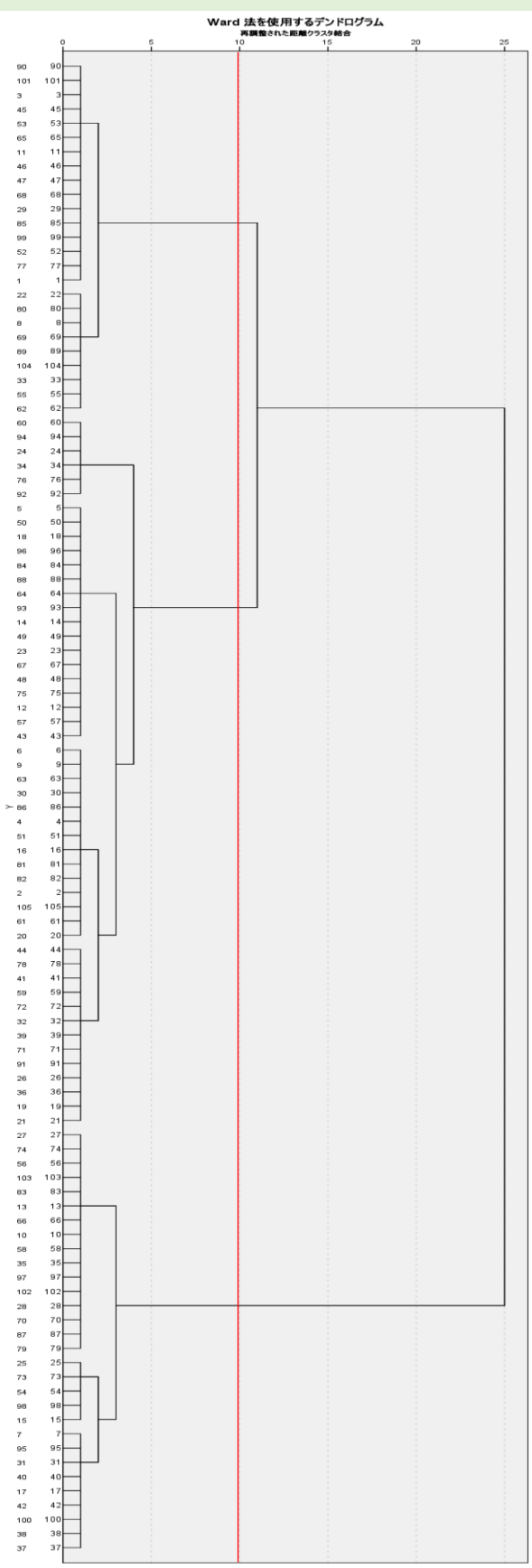


【活動B】双方向プレゼンテーション  
質問などをしながら積極的に聞き手とやり取りする



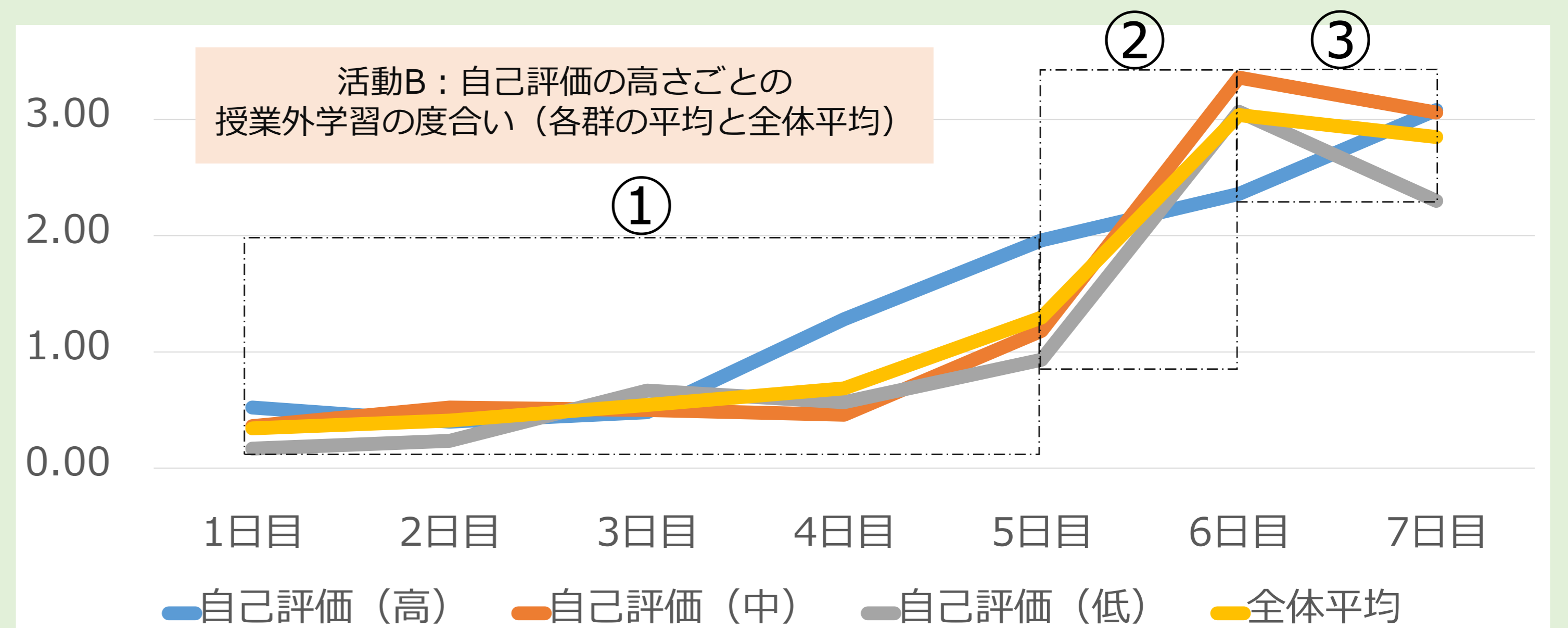
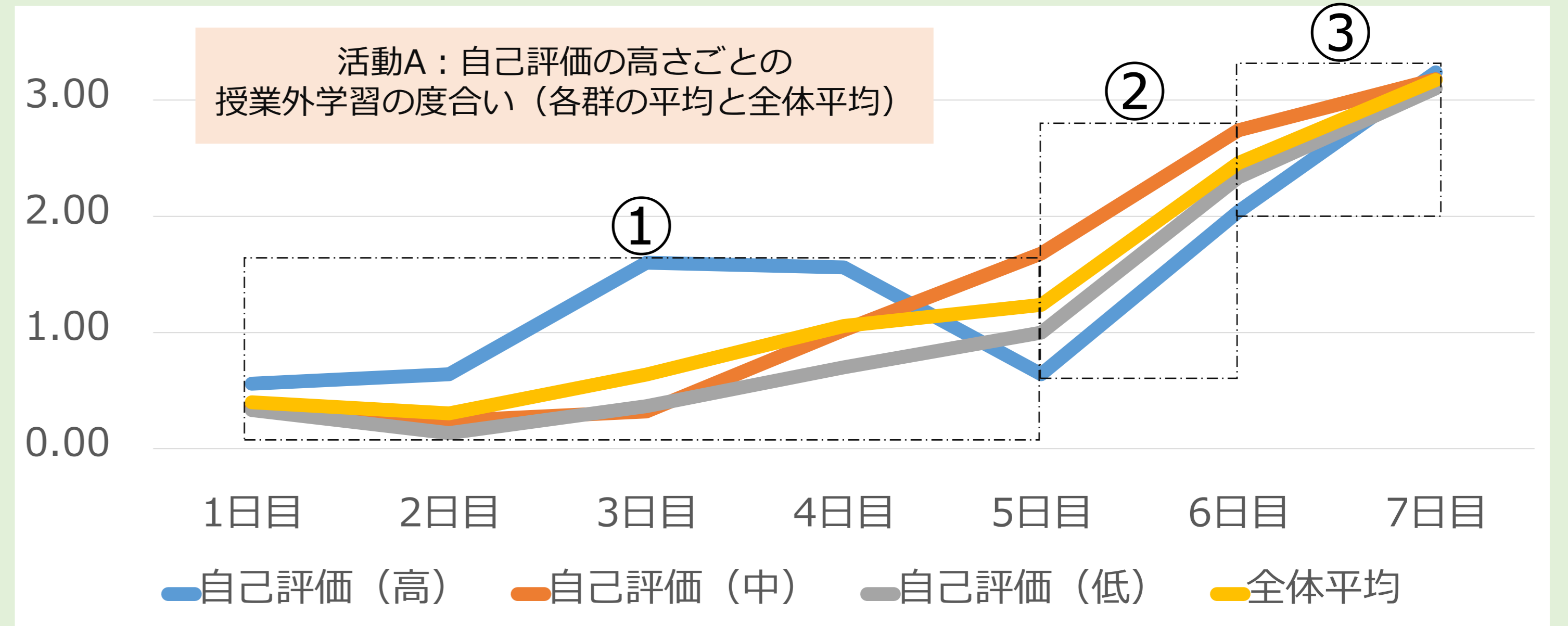
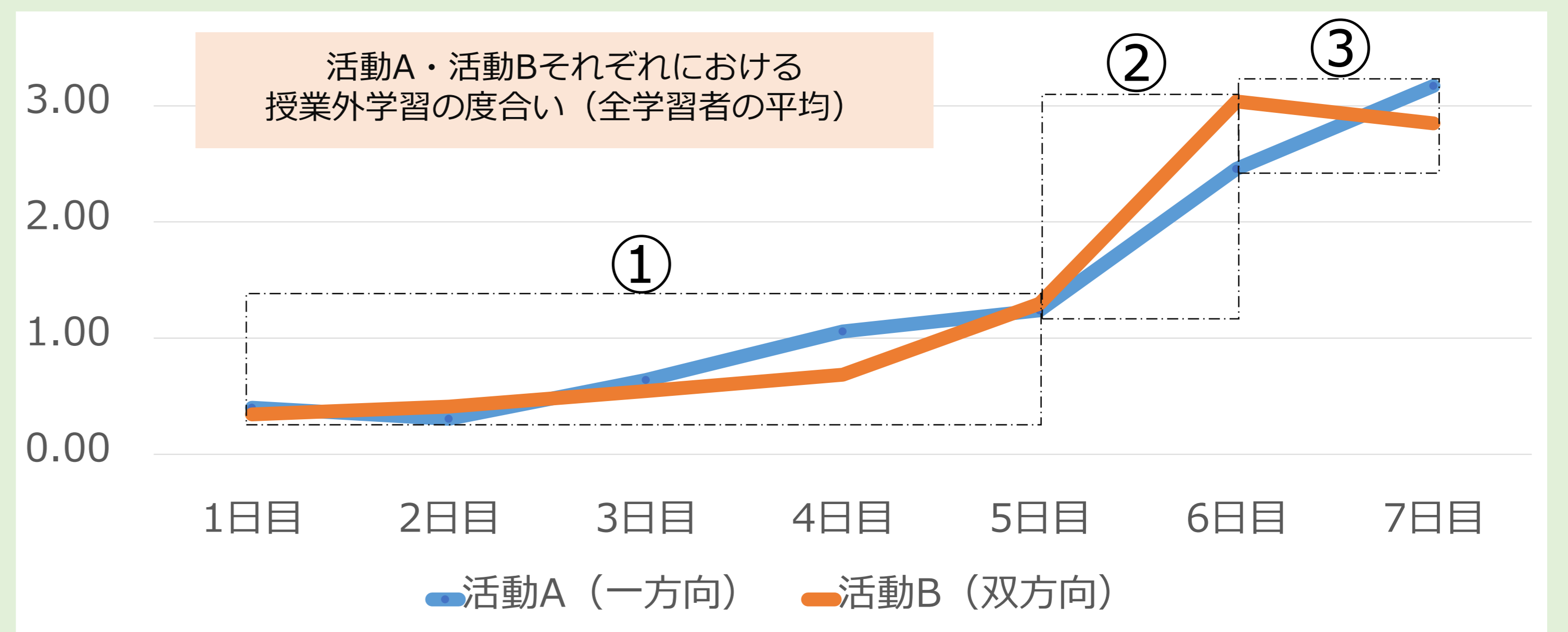
## 分析

- ① 事前に行った自己評価アンケートをもとに、全学習者に対して階層的クラスタ分析を実施した（全データに欠損値がない105人が対象）。
- ② 下のデンドログラムから3群（クラスター）を作成した。
- ③ クラスタ間に差があるかを確認するために、クラスカル・ウォリス検定と多重比較を実施した結果、すべての項目間に有意差が認められた。
- ④ 各クラスターを「自己評価（高）」「自己評価（中）」「自己評価（低）」と名付け、下の表に各問への回答の平均値をまとめた。
- ⑤ 右にクラスターや活動ごとの違いが分かるようにグラフを作成した。



	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9
自己評価（高）	4.80	3.88	4.40	4.32	3.84	4.32	3.92	4.44	3.08
自己評価（中）	3.68	3.08	3.40	3.42	2.42	3.48	2.64	3.16	2.40
自己評価（低）	2.47	2.47	2.67	1.77	1.40	2.07	1.47	1.83	2.00
全体平均	3.60	3.10	3.43	3.16	2.47	3.28	2.61	3.09	2.45

1. あなたは英語が好きですか。
2. あなたは中学生として、英単語をどれくらい知っていると思いますか。
3. あなたは中学生として、英文法をどのくらい理解していると思いますか。
4. あなたは原稿等を準備して、英語を話すことは得意ですか。
5. あなたは何も見ずに、即興で英語を話すことは得意ですか。
6. あなたは英語を聞いて、内容を理解することは得意ですか。
7. あなたは前に立って、クラスメイトに英語でプレゼンテーションをするのは得意ですか。
8. あなたはグループ内など、少人数のクラスメイトに英語でプレゼンテーションをするのは得意ですか。
9. あなたは普段授業以外で、1週間で平均してどれくらいの時間を自主的な英語学習に充てていますか。（塾・英会話教室・最低限の学校の課題を除く）



## 結果

時期①～③は  
右図の①～③に対応

- 時期①：活動A・Bとも、テーマの確認や関連内容の下調べ等をした生徒（主に自己評価（高）群）以外は、**ほぼ準備を行っていなかった**。
- 時期②：活動Aでは**原稿作成と音読練習**が主だったのに対し、活動Bではそれらに加え、**自分の意見を述べるための調査や質問・クイズの作成**等も含まれていた。自己評価（高）群は、活動Aでは他群と同様の傾向であるのに対し、活動Bでは**時期①から徐々に準備を進めていた**。
- 時期③：活動Aでは、準備した原稿をより**正確に伝えるための練習**を最後まで行っていた。一方、活動Bでは、聞き手の反応によってプレゼンテーションの進め方を調整する必要があるため、**反応を想定して練習をする生徒もいた**が、確定的な進行にならないことから、**活動Aほど事前練習を行わなかった**生徒が多く見られた（主に自己評価（中）群・自己評価（低）群）。
- 87%の生徒が、**活動Bでのプレゼンテーションの方が聞き手として発表内容を理解しやすく、その多くが交流活動に肯定的**であった。

## 結論

プレゼンテーション当日の事前練習量は活動Aの方が多かった。一方、活動Bでは、自己評価（高）群は当日に至るまでの傾向が他と異なっていた。さらに、活動Bの方が活動として肯定的に捉えられていることがわかった。活動Bのように、聞き手とのやり取りが当日のプレゼンテーションに含まれることで、調査や追加の質問・クイズ作成を事前に主体的に行うなど、原稿作成と音読練習に留まらないさらなる準備への動機づけが確認され、学習に及ぼす影響の範囲が異なる可能性が示唆された。